

原著

古英語 *cōl* に水文景観が後続するイングランドの地名宅間 雅哉<sup>1)</sup>English Place-Names Containing Old English *cōl* Followed by Water Features

Masaya Takuma

## 要 約

本稿では、イギリス地名協会編纂の『イングランド各州地名要覧』（以下、『要覧』）による気候地名の収集作業が最終段階を迎えたことを受け、テーマを限定して、現時点における成果の一部と今後の課題等について論じる。今回は、「涼しい（“cool”）」を意味する古英語 *cōl* を第1要素とし、第2要素として水文景観（water features）に関する名詞が後続する地名36例を取り上げる。気候地名収集の過程においては、採録の対象とする個々の地名の綴りを常にデータベース化していくことが議論の妥当性強化につながる。36例という出現数は、1924年から出版継続中の『要覧』が収録する地名数から見れば極めて少ないが、背景として、地名研究における *cōl* の扱い自体にまだまだ不十分な点があるのも一因かと推察される。今後は、周辺関連領域の視点も交えながら、やはり「寒暖」に関する気候地名で、「寒い、冷たい（“cold”）」を意味する古英語 *cald* を第1要素とする地名と関連付けて検討していく。

キーワード：イングランド、気候地名、寒暖、古英語 *cōl*、水文景観（water feature）

## 1. 研究の目的と手順

過去数年間、イギリス地名協会（English Place-Name Society）が編纂する『イングランド各州地名要覧』（*The Survey of English Place-Names*、以下『要覧』）の精読によって、イングランドの気候地名を網羅的に収集してきた<sup>1)</sup>。未読の『要覧』数巻を残すに至り、テーマを絞り込んで現時点におけるデータ整理と成果報告、及び今後の課題設定を目的として、本稿では、「寒暖」に関する気候地名のうち、字義通りには「涼しい（“cool”）」を意味する古英語（Old English、以下OE） *cōl* を第1要素とし、

湧水や河川のような水文景観（water features）に関する名詞を第2要素として構成される地名を取り上げる。

ある地名を気候地名とみなし得るかどうかの最重要となる判断基準は、それぞれの語源の定義と、構成要素となる古語である。例えば、Sussexの『要覧』306頁では、Colwellの語源を“cool spring”と定義し、構成要素をOE *cōl* 及び *wielle* と明示しているので、判断はたやすい。しかし実際には、こうした丁寧な記述が存在する反面、Oxfordshireの『要覧』第2巻292頁のCool Springのように、見出し語となる地名の綴りのみ単独で示されるケースも少なくない。

1) 宅間 雅哉 東京未来大学こども心理学部（Tokyo Future University） masaya.tkm@gmail.com

そこで、後者のような事案に対処するためには、『要覧』を精読する中で、前者のような専門的記述を伴う地名の綴りをデータベース化して漏れなく蓄積し、判断の根拠を強化していく必要がある。そしてそれを基盤として、問題となる地名の綴りから語源の定義、及び構成要素となる古語を類推して、気候地名とみなすことが妥当か否かを検討していく。

このように、各地名の綴りは、本研究課題の推進にあたって極めて重要な位置を占める。これを踏まえて、以下の7項目を採録・不採録の統一基準としてOE *cōl*を第1要素とする地名、及びOE *cōl*が第1要素と考えられる地名（以下、「*cōl*地名」）を収集した。

- (1) 見出し語の綴りにOE *cōl*の痕跡を連想させる部分、あるいは現代英語（Modern English、以下Mod. E）*cool*の文字列はあるけれども、構成要素となる古語及び語源の定義が明示されていない地名については、OE *cōl*が構成要素であるという可能性を完全に排除できないので採録する。
- (2) 見出し語の綴りにOE *cōl*の痕跡を連想させる部分、あるいはMod. E *cool*の文字列はないが、OE *cōl*が構成要素と明示された地名は採録する。
- (3) 見出し語の綴りにOE *cōl*の痕跡を連想させる部分、あるいはMod. E *cool*の文字列はなく、OE *cōl*が構成要素であることも明示されていないが、古形（early forms）の綴りに1つでもOE *cōl*の痕跡を連想させる部分を認めることができる地名は採録する。
- (4) 見出し語の綴りにOE *cōl*の痕跡を連想させる部分、あるいはMod. E *cool*の文字列はあっても、語源的にOE *cōl*が構成要素でないと明示された地名は採録しない。
- (5) 見出し語の綴りにOE *cōl*の痕跡を連想させる部分、あるいはMod. E *cool*の文字列はあっても、人名に由来すると明示された地名、またはその

可能性が示唆された地名は採録しない。

- (6) 綴りにOE *cōl*の痕跡を連想させる部分、またはMod. E *cool*の文字列があっても、現地の地名（local place-name）を起源とする人名に由来すると明示された地名は採録しない。
- (7) 『要覧』の中でbuilding names、例えばhouses, inns, tavernsとして分類されているものについては、たとえ綴りにOE *cōl*の痕跡を連想させる部分、あるいはMod. E *cool*の文字列が認められても採録しない。

## 2. 結果

前節に示した基準による収集作業の結果、「*cōl*地名」の総数は、現時点では68例で、うち水文景観に関する第2要素が後続するものは36例（52.9%）となった。これら第2要素の内訳はOE *wella* “a well, a spring, a stream”（10例）、OE *brōc* “a brook, a stream”（8例）、OE *burna* “a spring, a stream”（5例）、OE *mere* “a pool”（3例）、OE *ford* “a shallow place, natural or artificial, across a stream, river or other water, by which crossing can be made”及びOE *pōl* “a pool, a pond, a pool in a river”（各2例）、そしてON *kelda* “a spring, a marshy place,”<sup>(2)</sup> OE *lacu* “a stream, a water-course,” OE *pyll* “a tidal creek, a pool in a river,” OE *riding* “a small stream,” OE *spring* “a spring, a well, a source of a stream,” OE \**wereð* “a marsh”<sup>(3)</sup>（各1例）である。

以下に、この順で実例を示す。綴りについては、OE *cōl*と後続の水文景観に関する第2要素の部分のみ表示し、すべてのパターンを網羅した。ただし、第2要素に後続する他の要素は省略した<sup>(4)</sup>。また『要覧』において、両要素間にスペースが設けられているものについては、第2要素の頭文字を大文字に統一して表示した<sup>(5)</sup>。出典については、州（county）の略形、コロンのあと『要覧』の掲載頁、あるいは『要覧』の巻数、アンダーバーのあと掲載頁で示す<sup>(6)</sup>。州の略形前のasteriskは、前節に示した採録の基準

(1) によるものであることを意味する<sup>(7)</sup>。また f.n. は field-name で、耕作地や牧草地・採草地等の各区画に与えられた地名である。(a)、(b) の区別は『要覧』に従ったが、この区別が未分化な初期の『要覧』に収録されたものについては、出典となる文献の成立年代によって、1700年を基準にそれより前を (a)、それ以降を (b) と筆者が分類した<sup>(8)</sup>。

OE *cōl* + OE *wella*.

Coalwell \*We:2\_15.

Colewall' \*Ch:3\_176 (f.n.(b)).

Colewell Gl:2\_151 (f.n.(b)).

Coley Well YW:1\_139 (f.n.(b)).

Colwell Brk:2\_440 (f.n.(a)), \*D:2\_629, Lei:4\_134 (f.n.(a)), Sx:306, \*YW:2\_162 (f.n.(b)).

Kolewelle O:l\_18 (r.n.).

OE *cōl* + OE *brōc*.

Coal Brook Sa:5\_127 (r.n.).

Coalbrook YW:1\_184.

Colebrook \*D:1\_255, D:2\_560, \*Wa:74.

Colebrooke D:2\_403.

Cote Brook Ch:3\_292.

Cow Brook Ch:1\_19 (r.n.).

OE *cōl* + OE *burna*.

Coalburn Db:2\_336.

Colber YW:5\_185.

Colbournes \*Gl:3\_12 (f.n.(a)).

Colburn YN:243, \*YW:3\_93.

OE *cōl* + OE *mere*.

Colmer Do:4\_401, Do:4\_406.

Coombesbury Brk:1\_234.<sup>(9)</sup>

OE *cōl* + OE *ford*.

Coleford Sr:127.

Collaford \*D:1\_255.

OE *cōl* + OE *pōl*.

Cole Poole Ru:246 (f.n.(b)).

Colepool St:7 (r.n.).

OE *cōl* + ON *kelda*.

Kelker We:l\_38.

OE *cōl* + OE *lacu*.

Cholake D:l\_3 (r.n.).

OE *cōl* + OE *pyll*.

Cophills Gl:3\_119.

OE *cōl* + OE *riðing*.

Coleready Nth:57.

OE *cōl* + OE *spring*.

Cool Spring \*O:2\_292 (f.n.(a)).

OE *cōl* + OE \**wereð*.

Coleward Ess:211.

### 3. 考察と今後の課題

現時点で、「*cōl*地名」の総数68例、うち水文景観に関する第2要素が後続するもの36例という出現数は、1924年以来、各州1巻から最大8巻の幅で出版され、すでに27州が完結、7州が出版継続中という『要覧』が網羅する膨大な地名数から見れば、極めて少ない。今回のOE *cōl*同様、「寒暖」に関する気候地名とすべきOE *cald* “cold” を第1要素とする地名及びOE *cald*が第1要素と考えられる地名（以下、「*cald*地名」）の総数1,010例、うち水文景観に関する第2要素が後続するもの385例と比較すると、その希少さが一層際立つ<sup>(10)</sup>。また、第2節に示した36例の所在州を見ると、「*cōl*地名」は、計15例となるD, Do, Gl, O, Brkの南西部、及び計10例となるCh, YW, Weの北西部に特に多く、ほぼイングランド全土に広く分布する「*cald*地名」とは異なる傾向を呈する。

第2要素に目を転じると、OE *wella*が最多となる点は、「*cōl*地名」「*cald*地名」双方に共通する。また第2要素となる名詞は、「*cōl*地名」で12種類、「*cald*地名」で19種類と、総出現数の極端な違いの割には大差がない。特に「*cald*地名」では例のないOE *mere*, *pyll*, *riðing*, \**wereð*が「*cōl*地名」の第2要素として生じる点は注目に値し、今後両者の違いを考察する際に有益な材料となりそうである。

今回は、「*cōl*地名」のうち、水文景観に関する名

詞が第2要素となるものについて論じた。これら36例のうち、『要覧』が語源の定義、及び構成要素となる古語を明示するものは26例(72.2%)である。一方、第2要素が水文景観に関する名詞以外の名詞となる「*cōl*地名」32例では、この数値は8例(25.0%)に低下し、歴代『要覧』編集関係者の苦勞が窺える。これまでの気候地名収集作業と並行して作成したデータベースで、「*cōl*地名」68例の第2要素と『要覧』の記述状況を俯瞰的に比較すると、第2要素が水文景観に関する名詞であれば、『要覧』としても、むしろ積極的にOE *cōl*を第1要素として指摘しやすいのではないかという印象さえある。Gellingはこの点を、*Col(e)-*で始まる地名の綴りと関連づけて率直に認めている<sup>(11)</sup>。さらに同氏の「古英語の形容詞 *cōl*は、地名では明確な形で例証されていない」という指摘は非常に重要であると同時に<sup>(12)</sup>、おそらく、上で述べた編集サイドの苦勞の一端を代弁したものと受け取ることもできるのではないか。またGover, Mawer and Stentonは、Devonの『要覧』第1巻の中で、同州で一般的な *Col(l)-*で始まる地名に関して、綴りが *Cole-*の場合は、OE *cōl*あるいはOEの人名 *Cola*を第1要素とみなし得るという見解を述べている<sup>(13)</sup>。しかし残念ながら、この指摘が一貫して同州『要覧』の記述に反映されているとは言い難い。

今後は、こうした経緯と現状を踏まえつつ、積極的に周辺諸領域の視点も交えながら、「寒暖」に関する気候地名として、特に「*cōl*地名」と「*cald*地名」を関連づけて検討する必要があるだろう。こうしたアプローチは、これらの地名に対する根源的な問いかけ、すなわち、仮に第1要素となるOE *cōl*と *cald*が「水温が低いから『涼しい』『寒い』あるいは『冷たい』」を意味するだけならば、水文景観に関する名詞が第2要素となる「*cōl*地名」及び「*cald*地名」を、そもそも気候地名といえるのか、という疑問に対する回答の用意にもつながるはずである。

#### 略形

Bd Bedfordshire.

Bk	Buckinghamshire.
Brk	Berkshire.
C	Cambridgeshire.
cent.	century.
Ch	Cheshire.
Cu	Cumberland.
D	Devon.
Db	Derbyshire.
Do	Dorset.
Ess	Essex.
f.n.(a)	modern field-name.
f.n.(b)	medieval and early modern field-name.
Gl	Gloucestershire.
Hrt	Hertfordshire.
Hu	Huntingdonshire.
L	Lincolnshire.
Lei	Leicestershire.
Mx	Middlesex.
Nf	Norfolk.
Nt	Nottinghamshire.
Nth	Northamptonshire.
O	Oxfordshire.
r.n.	river-name.
Ru	Rutland.
Sa	Shropshire.
Sr	Surrey.
St	Staffordshire.
st.n.	street-name.
Sx	Sussex.
W	Wiltshire.
Wa	Warwickshire.
We	Westmorland.
Wo	Worcestershire.
YE	East Riding of Yorkshire.
YN	North Riding of Yorkshire.
YW	West Riding of Yorkshire.

## 注

- (1) 気候地名とは日照・日射、風、降水など気候要素に関する文字や単語のついた地名で、日本の日向、日影、風越、雨坪、ドイツ語圏のSonnendorf、Schattenberg、Windhof、Schneeheide等がこれにあたる。
- (2) ONはOld Norse、古ノルド語である。
- (3) ここに示した定義は、すべてSmith, A. H.に拠った。なお、*wereð*の前のasteriskは、この単語が単独の名詞として生じた例を文献で確認できないため、理論的に再建された語形であることを示す。
- (4) 第2要素に後続する他の要素とは、例えば、Colwell House (Sx:306)のHouse、Cophills Lane (Gl:3\_119)のLaneである。
- (5) 例えば、Cole Poole (Ru:246)は、『要覧』ではCole poole furlongと表記されている。
- (6) 各州の略形は、Parsons, D. N. and Tania Stylesに従った。
- (7) 今回扱う「*cōl*地名」では、基準(2)に該当する例はなかった。
- (8) 1943年以前に出版された『要覧』が該当する。以下の通りである：Bd, Bk, C, D, Ess, Hrt, Hu, Mx, Nt, Nth, Sr, Sx, W, Wa, Wo, YE, YN。
- (9) 綴りの中の-sは、属格形と解することも可能であるため、例外的に第3要素-buryを示した。『要覧』では、これをOE *bearu* “grove”としている。
- (10) 水文景観に関する名詞を第2要素とする「*cald*地名」については、『神奈川大学言語研究』第41号(神奈川大学言語研究センター)(2019年3月刊行予定)を参照。

- (11) Margaret Gelling, 95頁 (“Stream-names and spring-names with Col(e)- are frequently assumed to contain the OE adj. *cōl* ‘cool,’ . . .”) 参照。
- (12) 前掲書、95頁 (“ . . . this word [OE adj. *cōl* ‘cool’] is not unequivocally evidenced in place-names.”) 参照。
- (13) Gover, J. E. B., A. Mawer and F. M. Stenton, 50-51頁参照。

## 参考文献

- Briggs, Keith. “Seven wells,” *Journal of the English Place-Name Society* vol. 39, 7-44, 2007.
- English Place-Name Society. *The Survey of English Place-Names* vols. 1-55, 58-82, 84-88, 1924-1984, 1985-2006, 2009-2011.
- Gelling, Margaret. *The Place-Names of Shropshire*, Part 1. Nottingham: English Place-Name Society vol. 62, 1990.
- Gover, J. E. B., A. Mawer and F. M. Stenton. *The Place-Names of Devon*, Part 1. Cambridge: English Place-Name Society vol. 8, 1931.
- Parsons, D. N. and Tania Styles. *The Vocabulary of English Place-Names (Brace-Caester)*. Nottingham: Centre for English Name-Studies, 2000.
- Smith, A. H. *English Place-Name Elements*, Parts 1-2. Cambridge: English Place-Name Society vols. 25-26, 1956.

(たくま まさや)

【受理日 2018年10月23日】